



公益財団法人愛知県文化振興事業団

2021年7月2日(金)
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ
☎ 052-955-5506

<Press Release>

報道各位

芸術監督と国際的に活躍するダンサーが、日本の文学作品に挑む！

勅使川原三郎版

羅生門

陽は落ち 朽ちて崩れた門 死体が重なる 鬼が笑う

「勅使川原三郎版『羅生門』」を8月11日(水)に当劇場大ホールで開催します。

本公演は、当劇場の芸術監督の勅使川原三郎(てしがわら・さぶろう)が、演出・振付を担い、国際的に活躍するダンサーと当劇場で創作を行ない、世界初演を迎えます。原作は、芥川龍之介の短編小説「羅生門」です。

本作品は、平安時代の京都で飢饉や地震などで荒廃した羅生門で起こる物語。職を失った男が、死人の髪の毛を抜いてカツラを作る老女に出逢ったことから、自身の正義感とは裏腹に盗人になる決心をします。善と悪の思いが交差する人物像は、現代の人間にも通じるテーマです。勅使川原は、この文学作品の言葉遣いに着目し、「羅生門の鬼」の伝説を含ませながら、創作にあたっています。

出演は、勅使川原三郎と佐東利穂子(さとう・りほこ)、アレクサンドル・リアブコの3名です。佐東は、勅使川原と共演を重ねながら、近年は振付家としても目覚ましい活躍ぶりを発揮しており、アーティストック・コラボレーターを務めます。リアブコは、ハンブルク・バレエ団(ドイツ)で20年以上のキャリアがあり、その優れた技術、演技力は、長期にわたり多くダンスファンを魅了しています。

世界的なダンサーたちがつくりあげる新作ダンス公演にどうぞご期待ください。

なお、本公演は有限会社カラスの主催で8月6日(金)から8日(日)に東京芸術劇場プレイハウスでも開催します。

お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(唐津・上林)

〒461-8525 名古屋市東区東桜1-13-2 Tel 052-955-5506 Fax 052-971-5541

E-mail: mkt@aaf.or.jp WEB: <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp>



勅使川原三郎

佐東利穂子

アレクサンドル・リアブコ

公演情報

- 公演名 | 勅使川原三郎版『羅生門』
- 日時 | 2021年8月11日(水)19:00開演(18:15開場)
- 会場 | 愛知県芸術劇場大ホール
- 入場料金 | 全席指定 S席 7,000円、A席 5,000円、B席 3,000円、U25は各半額
※U25は公演日に25歳以下対象(要証明書)。
※未就学児入場不可。託児サービスあり(有料・要予約)
○託児サービス 対象:満1歳以上の未就学児 料金:1名につき1,000円(税込)
申込締切:8月4日(水)お問合せ: オフィス・パレット株式会社
☎0120-353-528(携帯からは052-562-5005)
月～金 9:00～17:00、土 9:00～12:00(日・祝日は休業)
※車椅子席、団体割引(10名以上)は劇場事務局(☎052-971-5609
apat.info@aaf.or.jp)にて取扱い。
※開演後は入場できない場合があります。
※やむを得ない事情により内容、出演者等が変更になる場合があります。
- 販売日時 | 7月2日(金)10:00～
- 販売場所 | ○愛知県芸術劇場オンラインチケットサービス
<https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/event>
○愛知芸術文化センタープレイガイド(地下2階)(平日10:00～19:00)
☎052-972-0430※土日祝は18:00まで。月曜定休、祝休日の場合は翌平日。ほか
- 主催 | 愛知県芸術劇場
- 共同企画・制作 | 愛知県芸術劇場、KARAS
- 助成 | 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)
独立行政法人日本芸術文化振興会
- 感染症対策 | 当劇場の主催事業における新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みは以下のとおりです。
ご来場前にご確認ください。
https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/about/news2020_01.html

東京公演 | 2021年8月6日(金)・7日(土)・8日(日)東京芸術劇場プレイハウス
主催:有限会社カラス、共催:東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)

勅使川原三郎コメント

『羅生門』をダンス作品にしようという試みは、私の他の創作と同様、単に物語をダンスでなぞって見せようということではない。芥川の『羅生門』は、平安時代の飢餓、疫病の時代に、生きる術を失い、困り果て、もうこれ以上どうしようもないほどに切羽詰まった人間を描いている。多くの死体が横たわる羅生門の中にぽつんと生き残った人間が、行くところもなく雨の滴る音を聞いている。そんな時ですら、人間には欲があり、どこかに善悪の観念があり、そして裏切りがあり、葛藤があるということが面白く、また滑稽でもある。貧しさの、最低の状況にこそ、鮮明に見えてくる何かがある。私は、羅生門の「鬼伝説」に立ち返るとともに、芥川の筆跡、その文体を、ダンスとしてどう表すことができるか、探っていきたい。

勅使川原三郎

勅使川原三郎版「羅生門」あらすじ

雷鳴がとどろき、激しい雨が降りしきる。捨てられた死体が重なる、禍々しい空気に満ちた羅生門。そこに、一人の下人が駆け込んでくる。下人の目が捉えたのは、横たわる女の死体から、髪の毛を一本、また一本と抜いている老婆の姿だ。抜いた髪の毛でかつらを作り、売るといふ老婆。その忌まわしい行為に強く嫌悪した下人は、老婆を殺し、着物を奪い逃げる。その悪事のすべてを見ていたのは、鬼だ。鬼は下人を逃さなかった。聞こえてくるのは、断末魔の恐怖の叫びか、恍惚の吐息か。羅生門の闇が、動き出し——、夜明けの冷たい光に溶けてゆく——。

ヴァツラフ・クネシュ来日中止について

出演を予定しておりましたヴァツラフ・クネシュは、彼が主宰するチェコのダンスカンパニーのやむを得ないスケジュールの変更により、来日が不可能になりました。公演を楽しみにされていましたお客さまにはご迷惑をお掛けすることとなり、誠に申し訳ございません。何卒ご理解いただきますようお願いいたします。